

今月の特集

郷土ゆかりの作家

茨城県にゆかりのある作家の本を集めました。
一年を締めくくる最後の月にこちらの本はいかがですか？



『京都伏見のあやかし甘味帖』

おねだり狐との町屋暮らし

柏てん著

宝島社版

仕事と結婚を失い京都へやって来たれんげ。そこで出会ったのは、おっとり系大学生男子とおしゃべりな黒狐。京都・伏見を舞台に巻き起こる、あやかしと老舗甘味を巡る不思議な物語。大人気シリーズの第1作目です。



『滝平二郎きりえ名作集 冬-春篇』

滝平二郎著

朝日新聞出版版

1970年9月から1978年12月まで朝日新聞日曜版に掲載された作品の中から「冬・春」をテーマに作品を選んだ滝平きりえの傑作コレクションです。



『屋上のウインドノーツ』

額賀滂著

文芸春秋版

友だちがひとりもない県立高校へ入学した引っ込み思案の主人公は、ワケありの部長に誘われ吹奏楽部に入部しますが…。奮闘する高校生たちを描いた熱血部活小説です。第22回松本清張賞受賞作品。



『猫も杓子も猫かぶり』

出久根達郎著

文芸春秋版

主人公銀太郎の職業は猫の似づら絵師。ある日、行方不明の猫探しを依頼されたことから大事件に巻き込まれてしまいます。將軍を狙った殺人事件、自殺、富くじの不正な利権争い…。長屋の仲間たちと解決できるのか？痛快時代小説です。



『帝の至宝』

仲野えみこ著

白泉社版

国民が飢え苦しむ晶王朝。税が払えない村のため宝物を盗みに王宮へ忍び込んだ主人公香蘭。そこで美しい青年志季に出会います。暗殺者かとも思いつながりながら志季の優しい素顔に戸惑う香蘭。とってもキュンキュンする作品です！